

資料3-18 三重県における赤潮発生状況（平成31年1月～令和元年12月）

整理番号	発生時期(月日)	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積(km <sup>2</sup> )	発生水深(m)	最高細胞数(細胞/ml)	漁業被害	情報源
1	7月2日-7月12日	熊野灘北部(引本湾、尾鷲湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	7.2に引本湾および尾鷲湾で <i>H. akashiwo</i> 赤潮が発生した。引本湾では7.12、尾鷲湾では7.5まで持続し、最高細胞数は引本湾では90,900細胞/ml(7.4、タケダ0.5m層)、尾鷲湾では44,800細胞/ml(7.2、雀島東0m層)であった。引本湾では、細胞数が激減した7.12に2~3m層で溶存酸素量の低下が確認された。	不明	0-2m	90,900	有	三重県水産研究所
2	7月22日	志摩度会(英虞湾)	<i>Gymnodinium impudicam</i>	7.22に英虞湾で <i>G. impudicam</i> 赤潮が発生した。最高細胞数は2,750細胞/ml(伝六前、1.5m)であった。	不明	1.5-2m	2,750	無	漁業者、三重県水産研究所
3	8月27日	志摩度会(鰐湾)	<i>Mesodinium rubrum</i>	8.27に鰐湾で <i>M. rubrum</i> 赤潮が発生した。最高細胞数は2,250細胞/ml(槇ヶ島東側、0m)であった。	不明	0m	2,250	無	漁業者、三重県水産研究所
4	10月16日	志摩度会(英虞湾)	<i>H. akashiwo</i>	10.16に英虞湾で <i>H. akashiwo</i> 赤潮が発生した。最高細胞数は6,750細胞/ml(南田、0m)であった。	不明	0m	6,750	無	漁業者、三重県水産研究所
5	11月20日	伊勢湾(西部)	<i>M. rubrum</i>	11.20に伊勢湾西部で <i>M. rubrum</i> 赤潮が発生した。最高細胞数は280細胞/ml(白子、0m)であった。	不明	0m	280	無	漁業者、三重県水産研究所
6	12月16日	志摩度会(五ヶ所湾)	<i>M. rubrum</i>	12.16に五ヶ所湾で <i>M. rubrum</i> 赤潮が発生した。最高細胞数は1,190細胞/ml(木谷、5m)であった。	不明	0m-10m	1,190	無	南伊勢町南勢種苗センター

【注】

(1)「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、( )内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、Kはそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)

(2) 2あるいは3海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば2つの海域にまたがって発生した場合は、1つの発生に対して2つの整理番号を与え、発生件数は2件とカウントした。

(3)「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を1単位として記載した。